

□海外文献紹介□

***Helicobacter pylori* 除菌治療後の
胃原発 MALT リンパ腫の消退**

Regression of primary gastric lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue type after cure of *Helicobacter pylori* infection: *Eckehard B, Andreas N, et al* (Lancet 345: 1591-1594, 1995)

1991年, Wotherspoonらは, *Helicobacter pylori* (HP)感染が後天的に MALT リンパ腫 (lymphoma of gastric-mucosa-associated lymphatic tissue) を惹起し, MALT リンパ腫の発生母地になると報告して以来, 更に HP 除菌により MALT リンパ腫の臨床像の改善を示す報告も相次いでおり, 胃癌と同様に, 胃悪性リ

ンパ腫においても HP 感染がリスクファクターとして位置づけられてきている。

本論文では, 33 例の HP 感染を有する胃原発低悪性度 MALT リンパ腫に, omeprazole (120 mg/day), amoxycillin (2.25 g/day) 14 日間の投与を行い MALT リンパ腫への効果を検討している。HP 除菌後, 組織学的には 23 例 (70%) が完全に消退, 4 例 (12%) は部分的に消退したが 6 例 (18%) には変化は認められなかった。HP 除菌が無効であったうちの 5 例には手術が行われ, 組織学的検討により 4 例は高悪性度 B 細胞リンパ腫, 1 例は高悪性度 T 細胞リンパ腫であることが判明した。HP 除菌により消退した症例で平均

1 年間経過をみているが再発を来したものはなく, 早期のものであれば HP 除菌により 80% 以上の患者で腫瘍は完全に消失するが, 進行したものや高悪性度へと変化したものには HP 除菌は無効であると述べている。

【訳者コメント】 現在のところ胃原発 MALT リンパ腫に標準的な治療はないが, HP 除菌への反応により手術や化学療法が必要な症例が鑑別できる可能性が示唆されており, 今後更なる症例の集積および検討が期待される。

(愛知県がんセンター消化器内科

豊田 英樹 抄)